

# 米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く

131

## 甲賀の生業・竹刀作り

### ― 甲賀の古民具調査 ―

#### 東草野地域の生業

米原市の最北部に位置する東草野地域。この地域は、西日本有数の豪雪地域であることから「雪」とうまく付き合うための暮らしの知恵を、景観として見いだすことができます。また、かつては、山中を縫うように通る峠道で他地域との往来が盛んでした。このことから平成二六年三月に滋賀県では唯一の「山村景観」として、国の重要な文化的景観に選定されたことは記憶に新しいことでしょう。



▲ 竹刀作りの様子(甲津原)

東草野地域では重要な文化的景観に選定されるまで、建造物や民俗行事、自然環境など、多岐の分野にわたって調査が行われ、東草野を特徴づけるものとして、独特な生業があったことが明らかになりました。甲津原では麻を栽培して麻織に。曲谷では、良質な花崗岩が産出していたことから、石臼作り。そして甲賀では竹刀作りが行われていました。

#### 甲賀の生業・竹刀作り

明治二〇年の「滋賀県物産誌」によると、当時の六三軒すべてが農業に従事するものの「傍ら養蚕及炭焼採薪ヲ事トシ或ハ大工木挽ヲ業トスルモノアリ」という記載もあることから、多様な生業が営まれてきた集落といえます。竹刀作りが始められたのは、日露戦争後のことであり、京都で修業した人が始めたといわれています。昭和一四、一五年頃から需要が増加し、終戦後は一旦途絶えます。しかし、学校での剣道が復活し、昭和三〇年以降に再び需要が伸び、甲賀では五軒、甲津原でも三軒が竹刀作り

に従事していました。

竹刀の材料となる竹は、京都や湖西地域の業者から仕入れていました。特に京都で採れた竹は品質が良かったとされています。竹刀は竹の下の部分(モトという)しか使えなかつたので、その部分の竹を注文し、割った状態で甲賀まで配達されました。

竹刀の竹は青いものはためなので外で天日干しをして、赤い色になってから加工を始めました。竹の内側の節は配達時にあらかじめ取られていましたが、それをテカンナという小刀のような道具でさらに削ります。竹刀は四枚の竹の板で作りますが、それぞれの竹は中心が少し膨らみ、上下がしぼんだ形にならないといけません。この状態にするため、火鉢に炭をおこしたもので竹をあぶって柔らかくし、タメボウという二股になった木で竹を挟んでひねりながら、全体の形を整えていきます。この作業で朝五時頃から昼前までかかりました。

あぶった竹を手ぬぐいで拭くとつやが出ますが、紙やすりやサメ皮でさらに磨きます。また、側面には他の板と合わせた時に隙間がでないようにカンナで角度をつけました。このようにしてできた竹の板四枚を糸でくくり、上下を編んで百枚を一つにします。それを丸めて俵を包んで縄をしめ、運送屋によって名古屋にある問屋へと送られました。

しかし、その竹刀作りも昭和四〇年

後半からは外国産が出回り始め、やがて竹刀の需要が落ち、その姿を消すことになりました。このように甲賀は山村ですが、竹刀作りは京都で竹を仕入れ、名古屋へ出荷するという広域との交流が成立していたのです。

#### 独特な生業を後世へ

東草野地域が、重要な文化的景観に選定されて三年が経ちました。選定以降も「東草野の山村景観」の価値をより高めるために追加調査を行っています。その一環で甲賀区を対象にした古民具の調査を、滋賀県立大学の協力を得て実施しました。すると竹刀作りに関係する古民具を含めて約九十点を収集することができました。今後は収集した古民具の詳細な調査を行い、かつての生業を次世代に伝えていくため、お披露目したいと考えています。

(歴史文化財保護課)



▲ 収集した古民具の一部